

学校法人 西南学院

# ビジョンと中長期計画

2016-2025

# 後期中期計画

2021-2025



## 後期中期計画の 策定にあたって

学校法人西南学院は、1916年、米国人宣教師C.K.ドージャーによって福岡市に設立されました。創立者の遺訓“Seinan, Be True to Christ”（西南よ、キリストに忠実なれ）は、学院の建学の精神として、現在もなお大切に受け継がれています。

西南学院は、2016年5月に創立100周年を迎えるにあたり、今後も建学の精神を守り、さらに発展し続けるために、「西南学院ビジョン 2016-2025」を策定し、2014年12月に理事会で承認いたしました。

これは、現代の視点で建学の精神を見つめ直すことで、西南学院の全構成員が一つの将来像に向かって共通の目標を持ち、創立100周年以降も進み続けようとするものです。

そして、「西南学院ビジョン 2016-2025」を具現化するため各学校・園・保育所にて検討を重ね、2015年12月に「中長期計画 2016-2025」を策定いたしました。

策定にあたっては、西南学院が擁する保育所、幼稚園、小学校、中学校・高等学校、大学、大学院および法科大学院のすべてにわたって、一人ひとりを大切にしたい保育・教育を続けるため、2016年から2025年までの10年間におけるビジョン実現に向けた課題とアクションプランを議論し、精査したものを取りまとめました。

この「中長期計画2016-2025」は前半5年を前期中期計画、後半5年を後期中期計画と位置づけていますが、2020年をもって「中長期計画 2016-2025」のうち前期中期計画を終了することとなりました。

2021年からの後期中期計画を迎えるにあたり、各学校・園・保育所では前期中期計画の振り返りを踏まえ、改めて取り組むべき課題を洗い出し、後期中期計画として具体的に取り組む内容を再設定しました。

上記により策定した、「西南学院ビジョン2016-2025」と「中長期計画2016-2025」に沿って、西南学院はこれからも、建学の精神を基盤に、未来に向かって一步一步、歩みを進めてまいります。

2021年3月  
学校法人西南学院 理事長  
G.W.バークレー



## INDEX

---



後期中期計画の策定にあたって	1
建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性	3
[主なアクションプラン]	
学校法人西南学院	5
西南学院大学	7
西南学院中学校・高等学校	11
西南学院小学校	15
西南学院舞鶴幼稚園	17
西南学院早緑子供の園	19

# 建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性

建学の精神

使命

ビジョン

## 建学の精神

“Seinan, Be True to Christ”  
西南よ、キリストに忠実なれ

## 西南学院の使命

学校法人西南学院は、「キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人材を育てることを使命とする。

## 西南学院ビジョン 2016-2025

西南学院の建学の精神である“Seinan, Be True to Christ”とそれに基づく学院の使命を実現するために、5つの視点からビジョンを策定しました。ビジョンの5つの視点の中心にある建学の精神は、時代背景、社会環境の変化に応じて建学の精神の現代的意味を絶えず問い続ける、という想いを込めたものです。

### ビジョンの5つの視点



- **人間育成:**  
キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践
- **教育研究:**  
確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造
- **国際感覚:**  
異文化を受容し、行動できる国際性の修得
- **地域貢献:**  
進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働
- **経営基盤:**  
永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

### 人間育成

 キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

西南学院の土台は「聖書」です。時代が移り変わろうとも、決して変わらないのはキリスト教主義に深く根ざした、世界の平和を希求する隣人愛にあふれる人間育成の姿勢です。日々の行いをゆたかな隣人愛に満ちたものにするともに、世界のあらゆる場所において社会貢献に寄与することを目指すものです。

- ① 平和をつくりだす人間教育
- ② 隣人愛の理解と実践
- ③ 奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成

### 教育研究

 確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

「真理の探求」という使命のもと、保育所から大学院まで擁する総合学園として、研究と教育の有機的な循環により、保育・教育力のさらなる充実と社会を先導する新たな知と価値の創造を目指していきます。また、福岡西部副都心という恵まれた立地条件を活かし、広く九州・アジアをはじめ世界にも貢献する学術研究拠点として、その機能の充実・強化を目指します。

- ① 一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実
- ② 総合的な「知」を志向した教育機会の提供
- ③ 社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化

### 国際感覚

 異文化を受容し、行動できる国際性の修得

社会をとりまく環境は地球規模で大きく変化しています。政治・経済・文化において、国境を越えた活動が一般化し、外国で活動する機会のみならず、日本においても異なる文化背景を持つ人々と共に活動する機会が増えています。こうした社会を見据え、異文化を受容し、世界的視野で行動できるグローバル人材としての国際性を涵養していきます。

- ① グローバル人材の育成
- ② 異文化理解と外国語教育の充実
- ③ キャンパスの国際化の推進

### 地域貢献

 進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

アジア諸国との歴史的な窓口として、また国際交流都市として新たなステージを迎える福岡とともに、西南学院は成長を重ねてきました。西南学院を介して過去から現在まで培われた人や地域の様々な絆を、未来に向けて一つ一つ丁寧に紡ぎ、学院全体の一体感、地域との一体感をさらに高めるとともに、進化する福岡を牽引するという使命感と自覚を持ち、さらなる協働を推進していきます。

- ① 地域社会との協働
- ② 国際交流都市福岡への貢献
- ③ 地域に開かれ、地域に貢献する空間づくり

### 経営基盤

 永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

変化し続ける社会環境に応じて、絶えず変革と発展を続け、社会的責任を果たすためには、柔軟な組織の構築と安定した財務基盤の確立が必要です。これまでも、ガバナンス強化や経費削減など様々な取り組みを行ってきましたが、今後さらに経営体制の高度化を進め、安定的な法人運営を行っていきます。

- ① 経営体制の充実・強化
- ② 健全な財務基盤の確立
- ③ 社会的責任の遂行

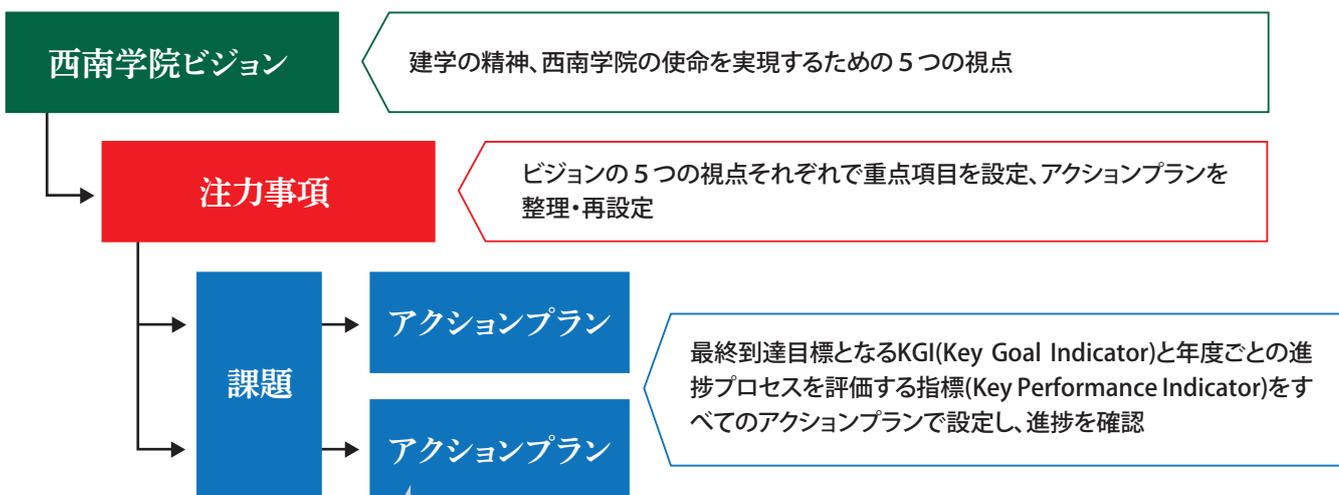
建学の精神と西南学院の使命を踏まえた「ビジョン」、ビジョンの実現に向けた「中長期計画」、そして、中長期計画を具体化した「単年度事業計画」を連動させることにより、建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性を確保します。

中長期計画

単年度事業計画

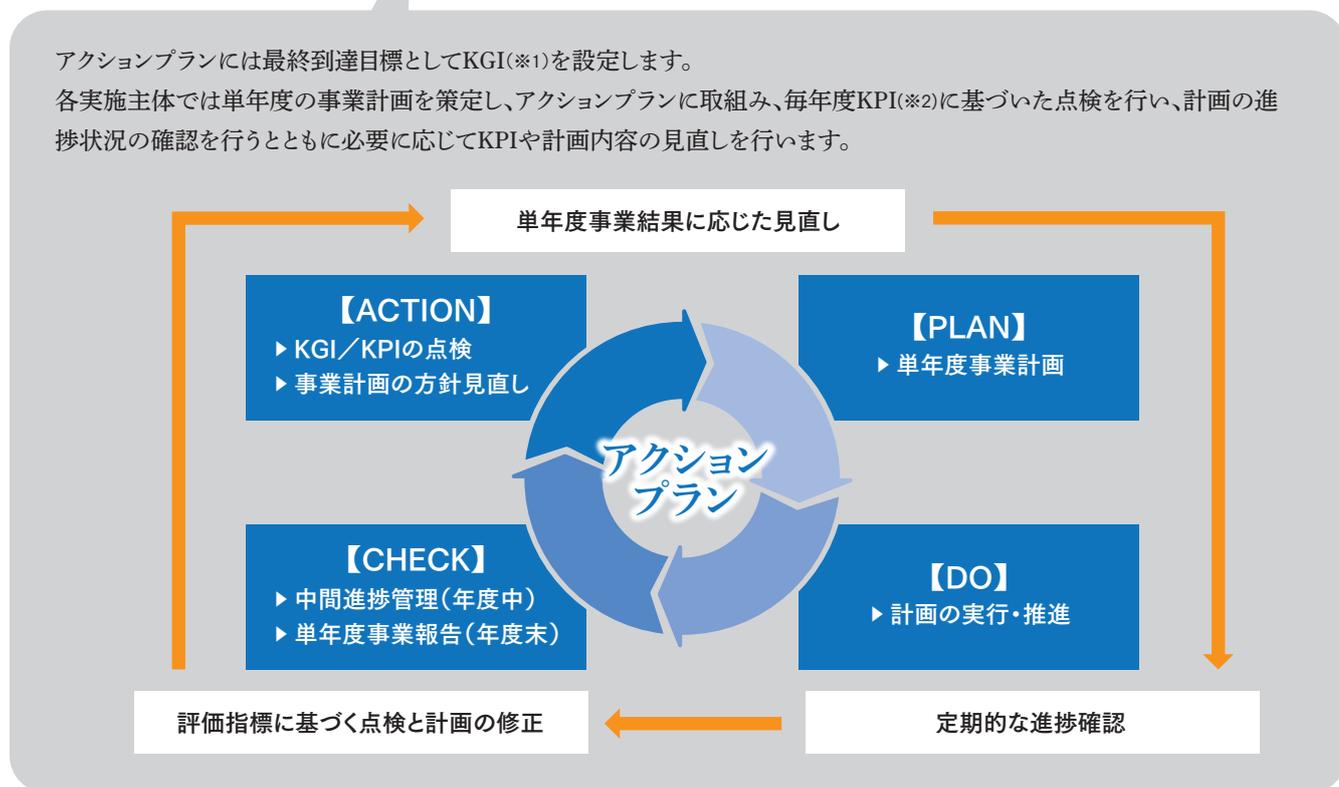
現場業務

中長期計画の後半部分(2021-2025)では、各学校・園・保育所において、ビジョンの5つの視点に基づき、重点的に取り組む事項を注力事項として定め、注力事項の達成に向けて課題や具体的な取り組みとしてのアクションプランを策定しています。



アクションプランには最終到達目標としてKGI(※1)を設定します。

各実施主体では単年度の事業計画を策定し、アクションプランに取組み、毎年度KPI(※2)に基づいた点検を行い、計画の進捗状況の確認を行うとともに必要に応じてKPIや計画内容の見直しを行います。



※1 KGI Key Goal Indicator アクションプランが達成できたと判断できる状態または指標

※2 KPI Key Performance Indicator アクションプランの各年度の到達状況を測る指標

# 学校法人 西南学院

## 目標

西南学院は、創立100周年に際して、西南学院のこれまでの歩みの振り返りに基づき「平和宣言」を表明するとともに、2016年に開催した西南学院創立100周年記念式典において児童・生徒・学生が宣言した平和を創り出し平和な社会で活躍するという「誓い」を西南学院の「未来宣言」と位置づけた。これまでの100年の振り返りである「平和宣言」と、これからの100年を担う児童・生徒・学生による「未来宣言」を踏まえ、西南学院に連なるすべての人が人生の使命と夢を見つけ、平和の実現とともにそれぞれの使命を成し遂げることができるよう、次のことを目標とする。

1. キリスト教精神に基づいた隣人愛を実践し、平和を創り出す人間を育成する。
2. 確かな保育・教育と新たな知と価値を創造できる教育を提供する。
3. 異文化を受容し行動できる幅広い国際感覚を育成する。
4. 進化する福岡をリードするという使命感と自覚を持ち、さらなる協働を推進する。

以上の目標に向けて、5つのビジョン(人間育成、教育研究、国際感覚、地域貢献、経営基盤)の観点から次の注力事項を定める。

## 人間育成

### ■注力事項とアクションプラン

#### 建学の精神に基づくキリスト教教育の実践と平和構築への貢献

- ▶「西南学院バプテスト資料室」の在り方に関する答申書に基づき、学院史資料センターにおいて資料の収集・整理を行うとともに、調査結果の自校教育への反映について検討する。

## 教育研究

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 西南学院における教育連携の推進

- ▶学院将来計画委員会や学院内教育連携検討委員会等において、各学校・園・保育所間の教育・保育プログラムについて共有し、関連性や関係性について情報交換を行う。

#### 2. 教育インフラの整備

- ▶事務システム(事務用PC、サーバ等)の更新を行う。
- ▶各学校・園・保育所の状況に即したポータルシステムやグループウェアの更新を行う。
- ▶各学校・園・保育所の状況に即した働き方の変化に伴う情報インフラ整備に関する検討と整備を行う。

## 国際感覚

### ■注力事項とアクションプラン

#### 異文化理解と受容の推進

- ▶各学校・園・保育所における多様性への理解とその受容に関する取り組みの集約や情報共有を行い、さらに課題抽出と改善に向けた検討を行うとともにその方策を実施する。

## 地域貢献

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 西南学院におけるSDGsに関連する取り組みの推進

- ▶ 各学校及び各組織等が実施しているSDGsに関する取り組みを把握し、推進する体制の在り方について検討する。
- ▶ 各学校及び各組織等が実施しているSDGsに関する取り組みについて、情報収集を行い、学内外に発信する。
- ▶ 各学校及び各組織等にて、SDGsに関する教育普及活動を実施する。

#### 2. 地域社会に向けた知的リソースの提供や防災協力の推進

- ▶ 地域、行政を交えた机上訓練を行い、より具体的な防災計画の作成及び訓練を行う。また、各学校・園・保育所の防災計画と対策について把握し、協力体制構築に向けた検討・協議を進める。
- ▶ 災害ボランティアセンター設置候補地として、災害時に機能できるよう整備する。

## 経営基盤

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 校友行政の強化

- ▶ 各学校の同窓会との連携強化を行うとともに、小学校同窓会の立ち上げの支援や舞鶴幼稚園、早緑子供の園の卒業生データ管理について協議する。

#### 2. 将来計画を踏まえた学院の財政計画策定及び財政基盤の構築

- ▶ 大学サポーターズ募金を推進する。用途に体育館、西南会館建設を加える。また、大学以外の各学校・園・保育所においては新規の募金事業の創設に向けた検討を行う。
- ▶ 将来計画を考慮した上で保有資金量を試算し、収入に対する支出項目の配分を検討するとともに支出項目見直しの検討を行う。

#### 3. 広報活動の強化

- ▶ 各学校の広報担当者へヒアリングを行い、学院全体としての効果的な広報活動について協議する。また、舞鶴幼稚園及び早緑子供の園のホームページ充実のための支援を行う。

#### 4. 教職協働のための組織体制と職場環境の整備・充実

- ▶ 人事考課制度並びに役職位任免制度を改正し、運用後の検証を行い改善を検討する。
- ▶ 研修制度の抜本的な見直しを行い、改正研修制度の運用並びに検証を行う。
- ▶ 教職協働の将来構想ワーキングチームを創設する。

#### 5. ガバナンスの再構築

- ▶ 法人役員・役職者に係る決裁権限を明確にする。
- ▶ 稟議制度を改善する。

#### 6. IR[Institutional Research]による運営管理の強化

- ▶ 教学IRを推進するための組織体制の構築と各種データの収集・整備、PDCAサイクルを実行するため各部署・会議体への啓蒙活動を推進する。
- ▶ 経営IRへの取り組み事例を蓄積し、基幹業務としての経営IRがどのような形で行われることが適切であるかを検討する。
- ▶ 大学以外の各学校・園・保育所へIRの必要性を啓蒙するための取り組みを行い、各組織のデータの収集及び整理を進める。
- ▶ IR活動を推進するための組織の拡充とIR活動を実践する人材の育成を行う。

# 西南学院大学

## 目標

西南学院大学は、国籍や年齢、宗教、性、組織など異なる文化的・社会的背景を持つ他者を理解し、ともに新しい価値を創造できる力＝「多様化する社会と共生する力」を育成することを目指す。そのために、社会的課題の解決に実践的に応用できる課題解決力の育成に向けて、学生が主体的に学修に取り組むための教育・研究プログラム及び教育・研究環境の整備を進めることを目標とする。

以上の目標に向けて、5つのビジョン(人間育成、教育研究、国際感覚、地域貢献、経営基盤)の観点から次の注力事項を定める。

## 人間育成

### ■注力事項とアクションプラン

#### 建学の精神に基づく人格教育の実施

##### (1) 大学への帰属意識を醸成する自校教育の実施

- ▶ 「西南学院史」の位置付け、講義内容、運営体制等について検討する。

##### (2) 健全な社会性、人間性を育むための正課外活動の活性化

- ▶ 貧困、障がい、差別等、共生社会を実現するための課題に出会うプログラムを提供する。
  - ・大学生が主となり、ボランティアを通して学院の各学校と直接的・間接的に交流する。
  - ・大学生が小学校・中学校・高等学校で発表する機会を定着化する。
- ▶ 多様な学生の受け入れと学生の意識の醸成に向けた支援環境を整備する。
- ▶ 学生ピアサポーター育成制度を構築する。
- ▶ 課外活動の奨励制度を導入する。
- ▶ 課外活動外部指導者への経済的支援を拡充する。

## 教育研究

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 共通教育の再編

##### (1) アカデミックスキルの養成

- ▶ 本学における入学前教育、初年次教育、リメディアル教育について、それぞれの定義、実施方針、効果について検証し、各教育の実施方法を具体的に検討する。
- ▶ スタディスキルに関する新たな科目あるいはプログラムの開設と運営に係る教員等の配置及び共通テキストや共通コンテンツの開発を行う。
- ▶ スタディスキルを含む学部教育等の全学的な学修支援のため、コーディネーターやSA[Student Assistant]・TA[Teaching Assistant]を配備した支援体制(例:ラーニングサポートセンター等の設置)を検討する。

##### (2) 情報教育(数理・データサイエンス・AIなどの情報リテラシー教育への対応)

- ▶ 数理・データサイエンス・AIを扱う情報科目を開設し、科目提供体制を構築する。

##### (3) キャリア教育(初年次からのキャリア観醸成、PBL型教育、社会連携、OBOG)

- ▶ キャリア教育科目の内容、開講方法、教員の任用基準、教員組織及び科目の検証体制を検討する。
- ▶ 関東圏企業へのインターンシップの実施に向けて、プログラム内容及び実施方法を検討する。併

せて、経済同友会実施の長期インターンシップ加盟に向けて、加盟条件となっているインターンシップの単位認定化を検討する。

#### (4)外国語教育

- ▶ 1年次共通科目としての英語において、アンケート等を分析してその適切性を検証し、CEFR等のレベルごとに養成すべき能力に関する基準(講義内容、評価の統一)を作成する。
- ▶ 共通外国語科目の卒業要件見直しを図る。
- ▶ 2年次英語については、2年次以降の専門教育にも対応できる外国語教育を再検討し、豊富な読書経験と異文化理解に基づくメディア・リテラシーの習得、理論とメソッドに基づくクリティカル・シンキングの能力向上を目指す教育目標を設定し、科目の新設を目指す。
- ▶ 「英語+1言語」のもと第2外国語においてコミュニケーションが取れるように、日常的シチュエーションにおける運用能力(初級レベル)が身につくための取り組みと、多文化社会に対応するため複数言語を継続的に学習していくための学習意義を設定する。

## 2. 学部学科の教育内容の見直しと特色ある教育の強化

### (1)学修者本位の学びの実現に向けた教育環境の整備

- ▶ 各学科において3つのポリシーの見直しを行い、新たに定めた各ポリシーを踏まえ、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修モデルを作成する。さらに、同ポリシーに沿って教育課程の見直しを進め、ディプロマ・ポリシーに合致した授業科目の整備を進める。(関連科目の解消含む)
- ▶ 各学部における加配教員数を踏まえ、各学部が貢献すべき共通教育に係る担当コマ数を目標値(目安)として設定し、各学部が共通教育への貢献度を高めることを目指す。
- ▶ 全体のカリキュラムマネジメントや教員組織編制に係る検討、調整、検証等の全学的機能を担う組織体制を構築する。
- ▶ 学修成果の可視化のために、成績評価基準割合(目安)及び科目ルーブリックを導入し、成績評価の平準化を図る。科目ルーブリックにおいてディプロマの観点別評価も採用し、学生別にその達成度を可視化するとともに、GPAの規準を用いて成績分布等の検証を行う。
- ▶ 教育活動に係るデータを収集・蓄積したポートフォリオの構築を通じて、学生の成長や教育成果を可視化し、学生、教職員双方がそれらを把握できる環境を整備する。また、教学IRを推進し、学生のディプロマ・ポリシー達成度やカリキュラムの妥当性の検証及び改正等を推進するための根拠データとして蓄積したデータを活用する。
- ▶ メディアを活用した授業(オンライン授業、eラーニング)等の併用により事前の学習(反転学習)や事後の学習(復習)に係る時間を十分に確保できるような授業運営への転換を図る。
- ▶ ディプロマ・ポリシーの「C:総合的な学修経験・創造性」を推し進めるために、PBLやディスカッション等の手法を盛り込んだアクティブ・ラーニングを正課科目や関連する正課外科目に積極的に導入する。
- ▶ カリキュラム改革や授業運営方法の改善等、全学的共有と展開を進める。
- ▶ 学生の活動履歴データ(学修ポートフォリオ)に基づく学生指導及び相談を行う仕組みを構築する。

### (2)学部横断型教育プログラムの実現に向けた検討

- ▶ 学部(学科)を横断した教育プログラムに関する調査と検討を行う。

### (3)学部学科の構成に関する検討

- ▶ 社会のニーズに関する情報収集と学部(学科)や研究科等の在り方に関する検討を行う。

### (4)ICT環境の整備

- ▶ 教育内容の改定やICT環境を踏まえた次期SAINS(教育・研究用のICT環境)の更新計画を策定し、実行する。
- ▶ 学生のパソコン必携化に向けて学内環境を整備し、支援体制を構築する。

### 3. 研究活動の活性化

#### (1) 外部資金の獲得に向けた研究活動の促進

- ▶ 個人研究費による研究成果を集約、公開するための体制・制度を検討する。
- ▶ 個人研究費の執行状況と研究成果の関係を分析し、今後の個人研究費の在り方について検討する。
- ▶ 効果的な外部資金獲得施策を検討する。

#### (2) 研究における産学官連携の推進

- ▶ 研究による産学官連携を推進するための体制整備について検討する。

#### (3) 学術情報の提供・公開の推進

- ▶ 学術情報の一元管理の必要性について調査する。必要に応じて、機関リポジトリでの公開の在り方を検討する。

### 4. 大学院教育に関する検討

#### (1) 学内進学者の確保に向けた取組み

- ▶ 既導入学部には、更なる入試広報を展開すると共に、未導入学部については、早期卒業制度の導入を検討し、学内進学者の確保に向けて取り組む。なお、早期卒業候補者の大学院入学試験制度の内容についても併せて検証する。

#### (2) 社会人向けプログラムの検討

- ▶ 各研究科・専攻別に社会人のニーズに対応した高度専門職業人養成のためのプログラム及び評価方法を検討し、学位取得に向けた制度を充実させる。

#### (3) 外国人留学生向けプログラムの検討

- ▶ 博士前期課程留学生の日本語の授業科目設置及び大学院チューター制度の更なる活用を促進し、外国人留学生向け日本語教育プログラム(修士論文作成レベル)の導入を検討する。



## 国際感覚

### ■ 注力事項とアクションプラン

#### 1. 全学生の外国語運用能力の向上

- ▶ 外国語運用能力の向上を目指す科目・課外講座の見直しと体系化を行う。
- ▶ 海外派遣留学希望者の語学力要件達成にむけてTOEFL及びIELTSの対策講座等の見直しと体系化を行う。
- ▶ 現状の協定校の精査、必要に応じて協定校を拡充する。
- ▶ 各種国際教育プログラムの参加者目標値を達成する。
- ▶ 協定校のオンライン授業を受講し、単位取得後に、本学の単位として認定可能とする制度を整備する。
- ▶ 海外の大学と共同して授業を行う体制を構築する(COIL[Collaborative Online International Learning]等)。

#### 2. キャンパスの国際化の推進

- ▶ 外国人対象の入試広報を強化する。
- ▶ 留学生の修学支援体制を整備する。(日本語教育の強化)
- ▶ 学部正課授業における日本人学生と別科留学生との合同授業(英語開講)拡充の在り方の検討と全学的な合意形成に向けた取り組みを行う。



## 地域貢献

### ■注力事項とアクションプラン

1. **産学官連携を通じた教育成果の実践による社会貢献**
  - ▶ 産学官連携を行う自治体・企業等の開拓及び実施体制の充実を図る。
2. **幅広い年齢層を対象とした生涯学習に関する知的リソースの提供**
  - ▶ 公開講座の在り方に関して調査・検証を行う。
  - ▶ リカレント(社会人の学び直し)に関する検討及び実施を行う。
3. **デジタルツールを活用した遠隔地への「知」の提供に関する検討**
  - ▶ オンライン(オンデマンドを含む)公開講座の内容に関する調査・検討及び提供を行う。
4. **地域のプラットフォームやシンクタンクと連携した福岡への貢献**
  - ▶ 福岡未来創造プラットフォームと連携した事業内容の検討及び実施を行う。



## 経営基盤

### ■注力事項とアクションプラン

1. **大学キャンパスグランドデザイン等の施設整備計画を踏まえた財政計画の策定と健全な財政基盤の構築**
  - ▶ 各年度(体育館及び西南会館竣工年度を除く)の決算時における当年度収支差額がプラスとなる予算編成を実行する。
  - ▶ 西南会館竣工後のキャンパスグランドデザインの見直しと資金調達に関して検討する。
2. **安定した志願者の確保に向けた取り組みの強化**
  - ▶ WEBを活用した広報戦略を確立し、費用対効果の高い入試広報を実現する。
  - ▶ 入試センターと広報・校友課が連携し、入試広報を強化する。
3. **ガバナンスの再構築**
  - ▶ 全学的な意思決定機関の役割・審議事項等を整理する。
  - ▶ 大学執行部体制を整備する。

# 西南学院中学校・高等学校

## 目標

IoT、AI、ビッグデータ等の先進技術を活用することで、モノやサービスを提供する新しい時代、“Society 5.0”を迎えようとしている。国際化や多様化が進み、情報の高度化が加速する社会にあつて、教育現場においても、国家、地域、年齢、性別、言語等を越えた、多様で普遍的な価値観に対応できる人材の育成が求められている。建学の精神を堅守しつつ、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、平和を創り出す人材育成を継続するとともに、これまでの教育内容を点検し整備を進めることを目指す。これらを踏まえ、西南学院の建学の精神に基づき、次の4つの理念を教育目標として掲げる。

- (1) かけがえのない“Life(いのち)”を大切にす
- (2) “Love(聖愛)”の実践を通して、隣人に仕える
- (3) “Light(世の光)”として、平和構築に貢献する
- (4) 真理を探究し、真の“Liberty(自由)”を得る

以上の目標に向けて、西南学院の使命実現のための5つの視点から次の重点項目を定める。

## 人間育成

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. かけがえのない自他の「いのち」を大切にす教育の推進

- ▶ チャペル講話やミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切にす教育の充実
- ▶ 人権・「同和」教育特設ホームルームをはじめとする「人権教育」の充実
- ▶ 「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実

#### 2. 「キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践」の具現化

- ▶ 路上生活者や生活困窮者への支援物資受付等、ボランティア活動の充実、日本YWCA全国カンファレンス等への参加
- ▶ 校内・校外での「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」等の展開

#### 3. 平和構築に貢献するための幅広い視野の修得

- ▶ 中学3年沖縄修学旅行や韓国への(からの)旅等による平和学習の充実
- ▶ 地域教会やキリスト教主義学校等との連携
- ▶ 外部講師の招聘による啓発機会の創設

## 教育研究

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 入試制度・生徒募集の見直し

- ▶ 入試制度(中学・専願・前期・帰国生等の入試制度、入試科目、出題形式、入試日程等)の検討

#### 2. 教育内容の見直し

- ▶ 中高一貫教育体制の検証と改善への取り組みの実施
- ▶ 各教科の新教育課程における教育内容の充実のための教科会議の充実
- ▶ より良い教育課程を実現するためのワーキンググループ設置

- ▶ 英語教育の検証と改善案の策定及び大学入試改革に対応したカリキュラムの検討と改善
- ▶ 英語外部検定試験に対応した英語教育プログラムの充実と生徒がCBTに対応するための環境整備の推進

### 3. ICT化の推進

- ▶ 全生徒及び全教員へのタブレット端末の整備
- ▶ 校内のICT環境の整備及び校務システムの更新

### 4. 多様化する大学入試と進路希望への対応

- ▶ キャリア教育(進路指導)体制及び手法の見直し
- ▶ 高大接続及び高大連携の課題に対応した進路指導の充実
- ▶ 多様化する進路希望者に対する支援制度の確立
- ▶ 海外の大学への進学支援体制の構築

### 5. 教育支援体制の整備と充実

- ▶ 支援を必要とする生徒の情報共有と組織的な支援体制の確立

### 6. 教育力向上に向けての各教員のスキルアップの促進

- ▶ 研究授業の積極的展開
- ▶ 研修制度の見直しと検討

### 7. クラス編成の見直し

- ▶ 海外の大学への進学希望者等と留学生の混合クラス設置の可能性の検討

### 8. 教育施設の整備

- ▶ 情報・学習資料センターの施設のあり方や利用方法に関する検討及び実現に向けた計画の策定
- ▶ 部室ビレッジ施設の改修と会議室の利用方法の見直し
- ▶ グラウンド施設整備の検討
- ▶ その他の実験室、視聴覚教室、課外活動施設、職員室等の整備充実

## 国際感覚

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 国際交流プログラムの拡充

- ▶ 多様性を認め合う共生社会の形成に向けた国際交流プログラム(海外研修・留学制度)の充実

#### 2. 帰国生徒及び留学生受入れ制度の整備

- ▶ 帰国生徒への対応(募集拡大、教学支援の検討)
- ▶ 海外からの留学生の受入れに関する支援体制や制度の充実
  - ・ 留学生の受入れに関して、留学斡旋団体とのやりとりや留学生のケアを専門で担当する職員(または部署)を置き、より多くの留学生を招くことを可能にする。
  - ・ 留学生の授業参加の仕方を見直し、留学生が一般の生徒と同様に実際の学びができるように受入れ態勢を整える。(留学生+希望生徒による英語によるディスカッション形式の授業などの設定)



## 地域貢献

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. ボランティアや地域イベント、本校主催・共催行事等の継続

- ▶ 街頭募金、震災忘れない募金、社会福祉施設訪問の継続
- ▶ キリスト教学校フェア等、他校と協力して実施する活動を通じて、キリスト教主義の学校として地域社会に貢献する。
- ▶ 生徒会による選挙公報活動や地下鉄乗車マナーアップキャンペーンへの協力
- ▶ 地域の小学生や保護者を対象とした理科実験体験等の機会提供のほか、出前授業や体験学習、PTA学校訪問等を小・中学生へのキャリア教育に貢献できる取り組みとして実施する。

#### 2. 災害発生時の防災計画・協力体制の充実

- ▶ 防災協力体制の充実(災害発生時の避難場所提供等)
- ▶ 百道浜自治協議会との連携強化



## 経営基盤

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 安定した財政基盤の構築

- ▶ 安定した財政基盤の構築に向けた財政計画の策定

#### 2. 働き方の見直し

- ▶ 教員の負担軽減に向けた課外活動(部活動)のあり方に関する検討と改善案の策定及び改善策の実施
- ▶ ICT化を推進し、校内業務の効率化を進め、負担軽減を図る。

#### 3. 運営管理体制の見直し

- ▶ 様々な課題の解決に向けた委員会等の設置や既存の会議の整理等、組織体制の見直し
- ▶ 危機管理体制(災害対応・施設強化を含む)の充実・強化
- ▶ 校友行政の強化・同窓会との協力関係強化
- ▶ 後援会との協力関係強化(情報提供のさらなる充実、専用ホームページの検討)

#### 4. 広報活動の充実

- ▶ 中学校・高等学校全体のブランディング・広報の充実・強化



# 西南学院小学校

## 目標

西南学院小学校は、「真理を探究し、平和を創り出す人間の育成」という教育理念のもと、時代や社会の要請を踏まえて、特色ある教育課程の開発を進めることで、教育目標（「隣人愛を育む」「知恵を育む」）を具現化し、児童と教師ともに活気にあふれている学校を目指す。

以上の目標達成に向けて、西南学院ビジョンの観点から次の通り注力事項を定める。

## 人間育成

### ■注力事項とアクションプラン

#### 様々な取り組みを通じた児童・保護者へのキリスト教主義に基づく教育理念の浸透

- ▶ 聖書教育の教科横断的な取り組みの具現化、カリキュラム化を図る
- ▶ 教科横断的な取り組みの具現化、カリキュラム化
- ▶ 各種教育カリキュラムについての特別委員会を組織する

## 教育研究

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 教育の独自性・特色強化

- ▶ 教育目標具現化に向けたPDCAサイクルの確立と実施
- ▶ 外国語を取り入れた授業実施に向けた教員研修会の実施
- ▶ 外国語教諭の複数採用

#### 2. 学校全体をあげた教員の指導力向上

- ▶ 研修におけるPDCAサイクルを構築するとともに、研修や研究等を通じて習得した知識や技能を教員間で共有する体制を整備する

#### 3. ICT環境の整備

- ▶ タブレット等端末及び校内ネットワーク環境の整備の実施
- ▶ ICTを活用した授業実施に向けた教員研修会の実施

## 国際感覚

### ■注力事項とアクションプラン

#### 異文化や多様性に触れる機会の充実

- ▶ 留学生（留学生別科）との交流を定期的に行う
- ▶ 外国語、各教科における留学生交流の具体的計画
- ▶ 大学との連携の仕方について協議する
- ▶ 現在行われている行事の評価及び改善や見直し（代替・廃止）の実施



## 地域貢献

### ■注力事項とアクションプラン

#### 地域におけるボランティア活動、社会貢献活動の構築

- ▶ 地域と連携しての活動や運動の計画策定と実施



## 経営基盤

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 志願者の安定的獲得に向けた広報強化

- ▶ 広報活動の組織化と広報活動の計画策定と実施

#### 2. 各学校・園・保育所との連携促進

- ▶ 小中高の連携強化のための計画策定と実施
- ▶ 各学校・園・保育所との交流の計画策定と実施

#### 3. 学校評価などを活用した各取り組みの改善向上サイクルの確立

- ▶ 児童と保護者への学校評価の実施とフィードバック
- ▶ アドバイザリーボードの設置

# 西南学院舞鶴幼稚園

## 目標

子どもの幸せと健やかな育ちを最優先に考え、子どもを中心とした地域のコミュニティとしての役割を担う幼稚園を目指す。また、質の高い保育を維持していくために、教職員体制の改良及び安全でより良い保育環境の整備に取り組む。

## 人間育成

### ■注力事項とアクションプラン

#### 平和をつくり出す人間教育

- ▶ 自己肯定感を育み、仲間づくりを重視した保育を実践する。

## 教育研究

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 保育者の専門性向上

- ▶ 園内研究会の計画的な実施、及びそれぞれの保育士の自己研究・研修参加を通じて、幅広い知識や技能を身に付け、保育に生かす。

#### 2. 西南学院大学との連携強化

- ▶ 人間科学部児童教育学科の教員や学生と連携した研究、研究会、保育実習生の積極的な受け入れ等を通して、保育理論と実践の融合を図る。

## 国際感覚

### ■注力事項とアクションプラン

#### 価値観の違いや異文化を受け入れる素地の醸成

- ▶ 園児一人ひとりの違いや思いを大切にし、一人の人として尊重しながら関わっていく「インクルーシブ保育」を実践する。

## 地域貢献

### ■注力事項とアクションプラン

#### 子育て支援に関する取り組みの発信の強化

- ▶ Webページの活用や広報媒体の見直しなどを通して、子育て支援に関する取り組みを積極的に外部に発信する。



## 経営基盤

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. さまざまな災害に備えた環境整備の実施

- ▶ 災害発生時を想定した学院との連携に基づく危機管理体制の整備を進めるとともに、地震や水害等の自然災害を想定した避難体制を整備する。

#### 2. 安定した運営を支える組織体制に関する検討

- ▶ 質の高い保育を維持できる教職員体制の見直しと整備を進めるとともに、事務関連業務(人事・経理関係、補助金申請等)の継続的な支援体制に関する検討と改善を行う。

# 西南学院早緑子供の園

## 目標

子どもの命の安全を最優先に考え、中長期的な視点で保育に注力できる安定した組織体制と施設整備の基盤を構築し、子ども一人ひとりの心身の健康と発達を最大限に保障する保育所を目指す。

## 人間育成

### ■注力事項とアクションプラン

#### 子どもが生涯を通じて幸福に生きるために必要な力と社会性を育む保育の実践

- ▶ 教職員がキリスト教について学びを深めるとともに、子ども自身の尊厳を守り、子ども自身を取り巻く環境（家族や友だち、職員など）との繋がり大切さへの気づきを与える保育を実践する。

## 教育研究

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. 保育の特色の点検

- ▶ 日々の取り組みの点検と検証を通して、保育実践の改善を図る。
- ▶ 保育者の専門性向上に向けて、経験や年齢に即した研修計画の策定や実施等、PDCAサイクルの確立を行う。
- ▶ 家庭と保育所の連携を強化し、子育て支援の充実を図る。

#### 2. 西南学院大学との連携強化

- ▶ 西南学院大学人間科学部との保育者養成に関する協力・連携体制を整備、また、共同での実践研究やフィールドの提供を行う。

## 国際感覚

### ■注力事項とアクションプラン

#### 多様性を受け入れる感覚を育む保育・教育の実施

- ▶ 日常の中で異文化や多様性を意識するとともに、それらに触れる機会を積極的に設ける。

## 地域貢献

### ■注力事項とアクションプラン

#### 地域への子育て支援強化

- ▶ 園庭の地域開放や園行事（こどもまつり、運動会、クリスマス等）を通じ、地域住民への子育て支援の充実を図る。
- ▶ 地域に向けた育児講座や育児相談、各機関等からの見学受け入れを通じて子育て支援の充実を図る。



## 経営基盤

### ■注力事項とアクションプラン

#### 1. さまざまなリスクに備えた環境整備の実施

- ▶安全管理・危機管理マニュアルの見直しとともに、防災・防犯に関する対策行動や設備・機器・備品の点検を実施する。

#### 2. 安定した運営を支える組織体制に関する検討

- ▶チームワークの発揮や業務の質の向上及び効率化に向けて、役割や業務内容を整理し、現状の組織の妥当性や改善点を検討する。
- ▶保育の充実と安全な保育体制構築、経営基盤の安定化のため、クラス担任の保育士数確保に向けた方策・方針を固める。

#### 3. 既存の施設・設備に関する補修計画の策定

- ▶環境変化や老朽化を踏まえ、改修計画を策定し計画的に修繕・改修を進める。

学校法人 西南学院

---

西南学院大学大学院

西南学院大学

西南学院中学校・高等学校

西南学院小学校

西南学院舞鶴幼稚園

西南学院早緑子供の園